

## 名古屋・今村さん撮影「音のない3・11」完成

生まれつき耳の不自由な映像作家今村彩子さん(33)(名古屋市緑区)が、東日本大震災の被災地でろう者取材したドキュメンタリー映画「音のない3・11」が完成した。聴覚障害者向けのCS(通信衛星)放送「目で聴くテレビ」が制作。鳥取市で25日に開かれる人権集会で初上映される。

# 被災ろう者の

# 現実知って



今村彩子さん

今村さんが最初に被災地に入ったのは、発生から11日後の昨年3月22日。今年6月までに計7回訪れ、宮城、岩手、福島県の避難所や仮設住宅などのろう者取材し、撮りためた約46時間の映像を「学校の授業でも見てもらえるように」と23分に編集した。聴覚障害者のために字幕も入れている。年内には、英語、ポルトガル語、韓国語の字幕をつけたDVDにして発売する予定だ。

主人公は、自宅を流された宮城県岩沼市の72歳の女性。避難所では物資の支給を告げる放送が聞こえず、周りの人の様子に神経を使い続けた。仮設住宅に移った後は趣味の小物作りを再開、少しずつ笑顔を取り戻した



仮設住宅で孫に小物作りを教える女性(「音のない3・11」より、「目で聴くテレビ」提供)

が、昨年12月に再訪した際は同じろう者の夫が入院しており、「独りで寂しい」と涙を流した。

映画では、仮設住宅で周囲との「コミュニケーションの難しさ」を訴える夫婦や、避難情報が聞こえず、孤立した家で一晩過ごした男性らも登場する。今村さん自身が福島県いわき市の海岸近くで取材中、震度6の余震の後、津波警報のサイレンが鳴っていることをスタッフから知らされ、避難する場面も盛り込んだ。「揺れが収まったから大丈夫だ」と思った。震災の時のろう者も、そうだったのだろうか。

震災で多くのろう者も犠牲になったと知り、映画には「命に関わる情報に格差があってはならない。大事な情報は全ての人に伝わるよう社会を変えていきたい」との思いを込めた。できるだけ多くの人に、音のない世界の現状を知ってもらいたいと考えている。